



東海北陸自動車道 上見橋（上・下部工）工事〔富山県〕

第75期 株主通信

2022年4月1日～2023年3月31日

 株式会社 ピーエス三菱

証券コード：1871



Top Message

代表取締役 社長執行役員

森 拓也

■ 当年度の事業環境と業績概況について

当連結会計年度における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染拡大で制限されていた社会活動も徐々に緩和され、人流はコロナ禍前に戻りつつありますが、長期化するウクライナ情勢に端を発する物価上昇により、個人消費は緩やかな回復に留まっております。一方で大企業を中心とした設備投資は堅調に回復基調を維持しており、本格的な回復の兆しがみられるインバウンド需要もあり、コロナ禍前の景気までと僅かな水準まで回復しております。しかしながら、今後は金融不安による世界経済の減速も懸念され、景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社グループが属する建設業において、民間建築工事は燃料や資材価格の高騰により収益性にリスクを抱えております。加えて、熾烈な受注競争により利益の確保が困難な状況にありますが、設備投資計画の再開を受け、建築市場全体の縮小には至ることなく推移しております。一方、高速道路の老朽化対策など公共建設投資は活況を迎えており、防災・減災、国土強靱化も含め、この受注環境は今後も暫く継続していくものと見込んでおります。

このような経済状況のもと、当社は「中期経営計画2022」の基本方針・基本戦略に基づき、持続的な企業成長を目指し、目標数値の達成に向け取り組んでまいりました。受注高については1,506億21百万円（前期比33.8%増）、売上高は1,093億27百万円（前期比0.3%減）、営業利益は57億15百万円（前期比13.6%減）となりました。

■ 今後の取り組みについて

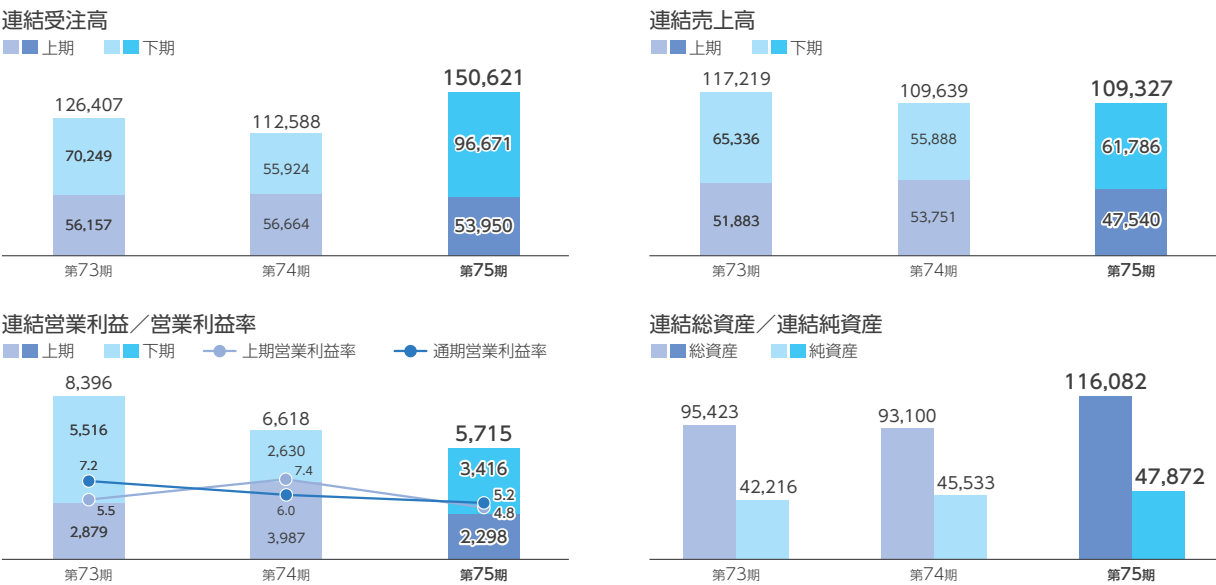
当社グループを取り巻く事業環境は、建設就労人口の減少や高齢化による慢性的な人手不足に加え、新設から維持修繕に質的变化した市場への対応など大きな転換期を迎えております。また、持続可能な社会の実現に向けたカーボンニュートラルへの取り組みもさらに加速させていかなければなりません。限られた人的資本で様々な経営課題に取り組みながら、ワークライフバランスの実現や収益力・生産性の向上を図るためには、様々な事業活動において「変革」が求められている時期であると認識しております。

このような環境下において、当社グループは建設事業を通じて国民が安全で安心して生活できる社会インフラを提供し、社会の期待や要請に真摯に応えてまいります。当年度より新たに策定した「中期経営計画2022」の基本方針・基本戦略を着実に実行し、戦略テーマである「環境に配慮した事業活動を推進し、成長分野における収益性を強化するため、建設DXの推進と多様な人材活用により生産性を進化させる」ことを最優先に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

持続可能な社会の実現に向け、 中期経営計画2022を遂行し、 サステナビリティ経営を推し進めてまいります

■決算ハイライト（単位：百万円）（単位：％）



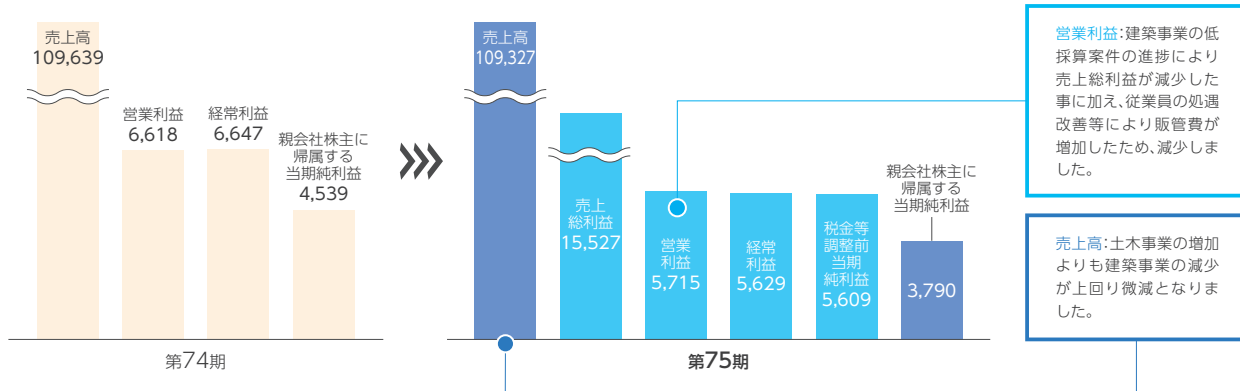
※百万円以下は切り捨てで集計していますので、合計に差異がある場合があります。

連結財務ハイライト

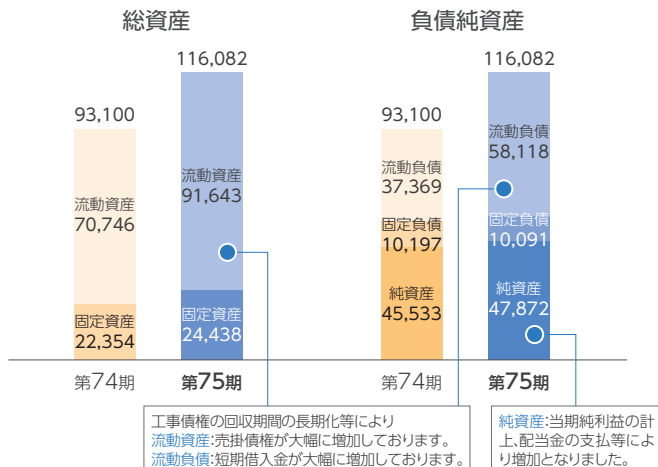
当期のポイント

- ▶ 売上高は土木事業は増加したものの、建築事業の減少が上回り微減となりました。
- ▶ 各利益項目は前期比で減少したものの、中計初年度の計画値を達成しました。

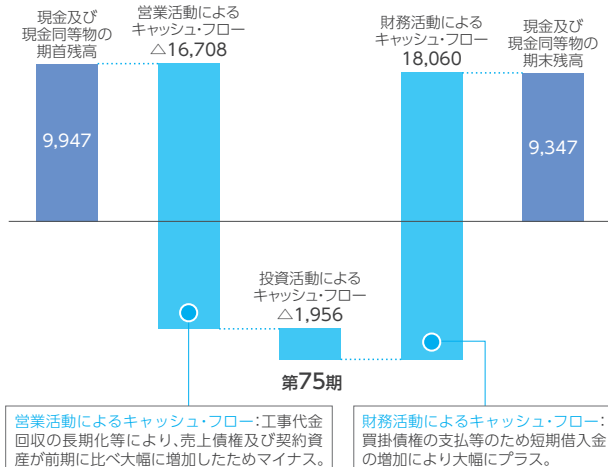
連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)



連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)



セグメント別ハイライト

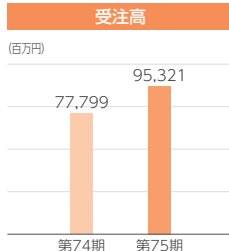
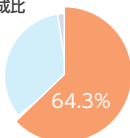
土木事業

受注高 **95,321**百万円
前期比 22.5%増

売上高 **70,247**百万円
前期比 4.0%増

売上総利益 **12,512**百万円
前期比 5.5%増

売上構成比



当期のポイント

受注は大型新設橋梁および大型大規模更新工事の獲得、売上・利益は設計変更獲得、利益好転等によりそれぞれ増加

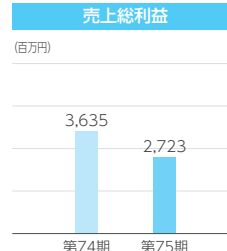
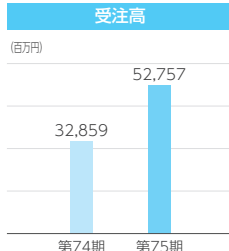
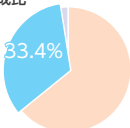
建築事業

受注高 **52,757**百万円
前期比 60.6%増

売上高 **36,536**百万円
前期比 9.0%減

売上総利益 **2,723**百万円
前期比 25.1%減

売上構成比



当期のポイント

大型医療施設等の獲得により受注が増加、繰越工事の減少等により売上高減、低採算工事の進捗等により売上総利益が減少

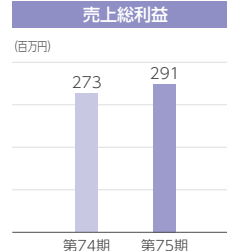
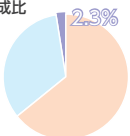
製造 その他事業

受注高 **2,542**百万円
前期比 31.8%増

売上高 **2,543**百万円
前期比 31.9%増

売上総利益 **291**百万円
前期比 6.3%増

売上構成比



当期のポイント

製造事業は受注・売上が増加、兼業事業は不動産賃貸先の増加により売上・売上総利益が増加

リングロックジョイント工法の開発

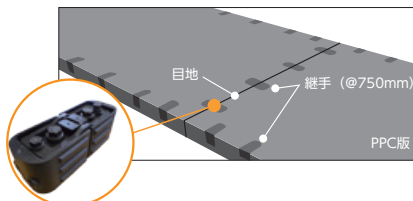
—空港や港湾のPPC版舗装の部分的取り替えを容易にする継手—

リングロックジョイント工法は、PPC※1版舗装に用いる新しい継手構造です。PPC版舗装は高い耐久性が要求される空港の駐機場や港湾のコンテナヤードの走行路に使用されています。ジョイント部に鋼棒を用いた従来の工法では、メンテナンスの際に部分的な取り替えには鋼棒の引き抜きやPPC版に孔を開け直すなど手間がかかっていました。本工法を用いることで舗装表面から継手部品の脱着が可能となり、容易に取り替え作業を行うことができます。

また、目地部分に圧縮力を導入し、高耐久性の裏込めグラウトと組み合わせることでポンピング現象※2を抑制できます。国による観光立国政策、国際コンテナ戦略港湾政策などの推進により空港や港湾の利用がさらに進む中、PPC版舗装の部分的な取り替え工事の効率化に適した継手として需要拡大が期待されます。

※1 プレキャストプレストレストコンクリート

※2 舗装下に浸入した雨水や粉砕されたグラウト材がPPC版に荷重がかかることで吹き上がる現象



特長

point

取り替えやすさで施工を効率化

PPC版舗装の表面から継手の取り外しが行え、作業の省力化、施工の短縮を実現



point

ポンピング現象の抑制

締結ボルトを締め付けることで目地部に圧縮力を導入でき、ポンピング現象を抑制

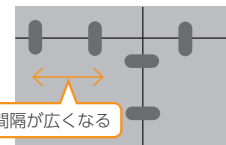


ボルトを締めることで圧縮

point

配置箇所の低減

継手の配置間隔が広く、従来工法と比べて配置数量を2/3程度に低減



interview

■アピールポイントは？

実際のコンテナヤードで試験施工を行い、耐久性や取り替えやすさを確認しました。特に空港でのPPC版舗装の取り替えは夜間の限られた時間で施工しなければなりません。作業時間の短縮や施工の効率化が可能となるこの継手は、今後高い競争力を発揮できます。空港や港湾舗装の改良工事はもちろん、新設工事でもPPC版舗装にこの継手を採用することができます。



試験施工の様子

■開発で良かった点は？

開発にあたっては、製品の要求性能を満たすために部材を見直し、必要に応じて国の研究機関や学識経験者に技術的な助言をあおぎました。

国の機関と連携して開発を進めたことで実際の採用に向け、はずみがついたと思います。

■今後の展開は？

コロナの収束とともにインバウンドや輸出入が増えることで期待される利用分野(イメージ) 空港・港湾の利用頻度も高まり、PPC版舗装の部分的な取り替え需要は高まります。

まずは舗装分野で本工法を採用してもらい、認知度を高めていきます。



期待される利用分野(イメージ)



大阪支店土木技術部
設計グループ(九州支店駐在)

上城 良文

人々の安全を守る

— 大規模な河川改修工事への取り組み —

私たちが暮らす日本列島は、地震をはじめ風水害や土砂災害が多発するところです。さらに、気候変動の影響もあり、激甚化・頻発化の傾向にあります。このため様々な防災・減災策がなされている中、当社においても台風による被害からの復興を目指し、「災害に強いまちづくり」のプロジェクトに携わっております。

◆ 2016年 台風10号の被害に対する取り組み ◆

岩手県北東部に位置する岩泉町は、2016年8月に発生した台風10号によって、町を流れる小本川、清水川が氾濫し洪水による大きな被害を受けました。

観測地点では、観測史上最大の $2,048\text{m}^3/\text{sec}$ の洪水流量が観測され、流域では床上浸水723戸、床下浸水121戸の被害が発生しました。

◆ 災害に強いまちづくり ◆

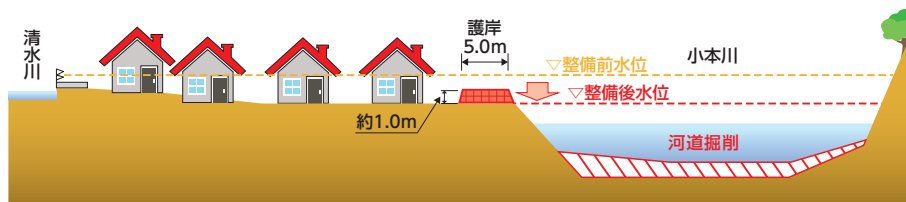
当社は本台風を機に岩手県が提唱する、「人命を守る、壊滅的被害を防ぐ」という整備対応方針に則り、同県の災害に強いまちづくりに携わっています。工事では激甚災害に指定された区間の河川改修を行っており、同じような豪雨が発生しても河川が氾濫しないように、河道掘削による川の面積の確保や、築堤、橋梁の架け替えを実施しています。



— 工事概要 —

工事名：二級河川小本川筋ほか
岩泉地区河川激甚災害
対策特別緊急工事

施工延長 : 3.535m
河道掘削 : $266,120\text{m}^3$
築堤護岸盛土 : $5,890\text{m}^3$
ブロック積 : $12,625\text{m}^2$
橋梁上部工 : 2橋
橋梁下部工 : 4基
旧橋撤去 他



河川改修(河道掘削)のイメージ



小本川被災状況



約3.5kmにわたり河川を改修



流域面積を拡張する工事の様子

建築DXの一翼を担うBIM活用

社会全体でDX(デジタルトランスフォーメーション)が推進される中、建設業界においても生産性および品質向上はもとより働き方改革の実践においてもDX推進は不可欠です。その中核となるのがBIMであり、当社もBIMを業務ワークフローの主軸にすべく様々な取り組みを実施しています。

発注者のニーズに応える



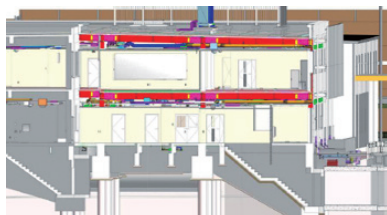
BIMを活用することで建物外観や建物内部の完成イメージをお客様にご覧いただけます。さらに、壁紙の色などの内装材の仕様決めにも活用ができます。視覚化することでお客様のニーズを今まで以上に正確に捉え、設計に反映することが可能です。

BIMを活用した工事管理

〇工事現場の見える化

建築の各種納まりや設備の配管ルートの確認において従来の2次元図面より視認性が高く、関係者との調整をより円滑に進めることができます。また、配管など埋設物はモデル化しておくことで竣工後の維持管理にも活用することが可能となります。

当社施工の「松山自動車道 松山IC管理施設増築工事」でもBIMを活用した現場管理を実施して、現場の「見える化」に挑みました。敷地内には高圧線が通っており、クレーンなどの建設重機の配置や手順など、BIMモデルを活用することで安全かつ円滑に工事を進めています。



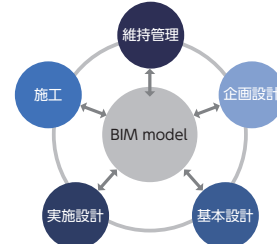
建物内の配管ルート検討



BIMモデルを用いた重機配置計画

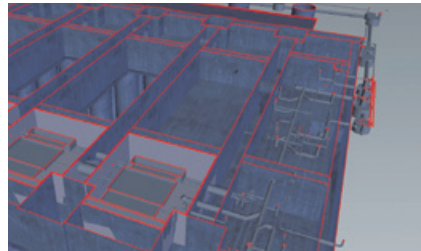
BIMとは

BIMとは、Building Information Modeling (ビルディング インフォメーション モデリング)の略称です。コンピューター上に作成した3次元の建築デジタルモデルに、コストや仕上げ、管理情報などを追加した建築物のデータベースを、設計、施工から竣工後の維持管理までのあらゆる工程で情報活用を行うためのソリューションであり、現在主流になりつつあるワークフローです。



BIMの活用イメージ

○協力会社とのコミュニケーションツール



上記写真は東京建築支店施工現場においてBIMモデルを用いた現場打ち合わせ状況です。協力会社をはじめとする関係者でモニターのBIMモデルを見ながら仮設計画や配管ルート等を確認することにより、問題点の共有や解決策の検討を円滑に行うことが可能となり、その場で問題解決できた点も多くありました。

社内啓蒙とトレーニング

BIMを活用していくには、ワークフローそのものを変える必要があります。そのため、社員の理解と意識改革に加え、BIMソフトの操作も習得する必要があります。当社では各現場での運用への足掛かりとして現場技術者を対象にBIM研修を実施することで、BIMに関わる基本的な知識とBIMソフトの基本操作習得を目指しています。



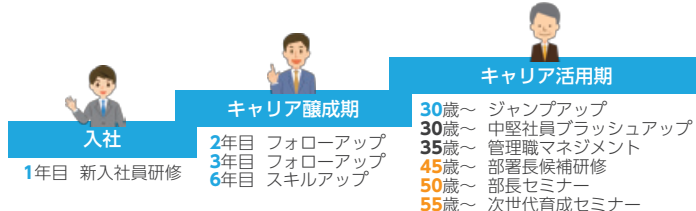
人財育成への取り組み

当社にとって従業員は財産であり、企業の将来を支えるもっとも重要な存在と考えています。中期経営計画2022にも人財確保と人財育成を掲げ、会社の将来を左右する命題と捉え、中長期的な視野で教育プログラムの充実化に取り組んでいます。

中期経営計画2016以降の取り組み

- 新入社員研修のアップグレード
- 早期マネジメント意識向上
- 一般職研修の新設
- 若手育成の強化、メンタルサポート
- 経営者養成研修の新設
- 中途採用者入社時研修
- メンタルヘルスケア研修

教育訓練制度 (■ 経営者養成研修 ■ 技術系研修 (一部事務系含む))



2023年4月 新入社員研修にて社長を囲んで

インドネシア科学論文シンポジウムで最優秀賞を受賞

2022年11月29日、インドネシアの南ジャカルタで開催された「PUPR*2022 科学論文シンポジウム」において、当社技術本部のラーミタ サリ ラフディナルさんが、DRBE (道路橋梁工学局) との共同論文を発表し、最優秀賞を受賞いたしました。

受賞した論文内容であるコンクリート構造物の電気防食や腐食モニタリング技術は、これまでインドネシアではよく知られていませんでした。しかし、2019年からDRBEと共同研究を開始し、これらの技術をインドネシアの国有橋や長大橋に適用し、モニタリングを行うことで、構造物管理者からも評価していただきました。また、現在は、政府港湾当局や港湾構造物を管理する民間業者からも引き合いを受けています。

今回の受賞をきっかけとして、インドネシアにおける^{シンク}Znカートリッジおよび遠隔監視システム事業を拡大し、さらにアジア地域と世界のコンクリート構造物の長寿命化に貢献してまいります。

※PUPR (公共事業住宅省) とは、公共事業と公営住宅を担当するインドネシア共和国政府の省庁



表彰式の様子
パスキPUPR大臣・DRBEの皆さんと (右端がサリさん)

論文タイトル

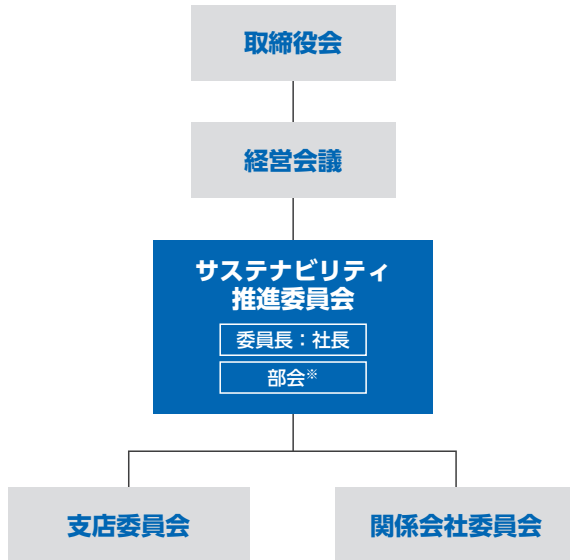
**インドネシアの鉄筋コンクリート構造物に初めて適用された、
電気防食技術と腐食モニタリングとしてのZnカートリッジおよびチタンワイヤーセンサー技術**
(Teknologi Zinc Cartridge Dan Ti-Wire Sensor Sebagai Teknologi Proteksi Katodik Dan Pemantauan Korosi Baja Tulangan Beton Pertama Di Indonesia)

2019年7月、DRBEと『橋梁および土木構造物の共同研究に関する覚書』を締結し、当社が開発した電気防食技術であるZnカートリッジ工法とモニタリング技術のインドネシアにおける適用性について、研究内容を取りまとめたもの。今回投稿された189件の論文のうち、学者委員により8件に選定後、シンポジウムでプレゼンテーションを実施し、最優秀賞として選定された3件の中でも最も高い評価をいただきました。

新しいサステナビリティ推進体制がスタートしました！

2023年4月よりスタートした新しいサステナビリティ推進体制について、概略をご説明いたします。

サステナビリティ推進体制図



※サステナビリティ推進委員会で重要課題（マテリアリティ）と定めた事項ごとに部会を設ける

当社グループでは、2022年4月よりサステナビリティ推進室を設置し、社会・環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る課題への取り組みを強化してまいりました。

この取り組みは、持続可能な社会の実現に貢献すると同時に、当社の中長期的な企業価値の向上にも繋がります。さらに推進体制を強化するために2023年4月より、現行のCSR委員会をサステナビリティ推進委員会（以下本委員会）に改編し、本委員会のもとに重要課題と定めたテーマごとに7つの部会を設置しました。これにより該当する課題への対処方針を立案・策定し、本委員会に上申・提言することが可能になりました。

社会・環境問題をはじめとするサステナビリティを巡る重要課題を理解し、様々な取り組みを実施してまいります。また、積極的な情報開示により株主の皆様とのエンゲージメントを深めます。

サステナビリティ基本方針

サステナビリティ基本方針として下記の項目を掲げ、本社、各支店、関係会社でサステナビリティ活動を推進しています。

- 1 地球環境に配慮した安全・安心で高品質な社会資本を提供する。
- 2 安全最優先と人権尊重を企業活動の基盤とし、多様な人財が活躍し、活気あふれる職場環境を構築する。
- 3 マルチステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを通し相互理解を深め信頼を獲得し続ける。
- 4 リスクマネジメントを徹底し、様々な重要リスクへの対応を事業機会ととらえ、新たな価値を創出する。
- 5 公正な企業活動を推進するとともに、コンプライアンスを徹底する。

完成工事のご紹介・・・土木編



グミノ木橋

[秋田県]

秋田県能代市二ツ井町と藤里町を結ぶ県道西目屋二ツ井線は、道路の冠水や土砂崩れ、落石などが発生し、救急搬送経路等の確保が課題となっていました。このような課題の解決に向け、グミノ木橋の橋梁上部工事を施工しました。

新たなバイパスの開通により、災害時の交通経路の確保、走行性の向上などが期待されます。



令和3年度安芸バイパス 奥野原高架橋第2PC上部工事 [広島県]

安芸バイパスは、広島県東広島市八本松宗吉から安芸区上瀬野町を結ぶ延長7.7kmの自動車専用道路で、本工事は、上瀬野町に位置する橋長159mのPC4径間連結コンポ橋(上り線)です。

本工事により渋滞緩和と交通事故減少に寄与することが期待されます。



貫川橋梁上部工工事 [福岡県]

本工事は、北九州市小倉南区曾根新田に位置する橋長54.5m、有効幅員25mのPC2径間連結T桁橋です。

北九州市の広域物流ネットワークの構築を図る上で、極めて重要な道路です。



国道道路改築工事 (仮称) 時曾根橋上部工その2 [千葉県]

本工事は、匝瑳市に位置する橋長221mのPC9径間連結プレテンションT桁橋です。

この整備により、一般国道126号線の渋滞の緩和、物流の効率化、周辺環境の改善等、地域の活性化や生活の利便性向上が期待されています。

小松拡幅北小松高架橋 (P16-P19) PC上部工事 [滋賀県]

本工事は、国道161号線における改良事業(小松拡幅)の整備のうち、橋長68mのPC3径間連結プレテンションT桁橋です。

交通容量を拡大することで混雑が緩和され、渋滞に起因する追突事故の減少等により、安全性が向上します。



完成工事のご紹介・・・建築編



エスコンフィールド HOKKAIDO新築工事 (北海道ボールパーク) (PC工事) [北海道]

新球場建設構想に基づき、『世界がまだ見ぬボールパーク』を目指した計画の中核施設として新球場が建設されました。

当社は、この球場の最大の特徴である可動屋根を支える構造体にPC鋼棒配線・緊張工事、頂部PCケーブル配線・緊張工事を行い、さらに観客席の段床版製作と架設工事を施工しました。





ラティエラ武蔵小杉 [神奈川県]

武蔵小杉駅前の現代的な超高層マンション群に隣接した閑静なエリアに立地する地上6階建て、3棟構成の197戸の賃貸マンションです。

モダンな街区の重層性をモチーフにした落ち着いた深みのある外観と、コの字型に配された建物の中心に緑あふれる中庭を有した開放感のあるラウンジが特徴です。



開放感あふれるラウンジ

荏原環境プラント新2号炉建設工事 (建築工事) [神奈川県]

本工事は、神奈川県藤沢市北部にあるゴミ焼却施設の老朽化に伴い、既存の事業所2号炉を解体して、エネルギー回収型廃棄物処理施設を新たに建設したものです。

新建屋は延床面積約6,600㎡、鉄骨造一部RC造6階建てとなります。



金亀公園第1種陸上競技場新築工事 (PC工事) [滋賀県]

滋賀県彦根市、国宝彦根城北隣に位置する総合運動公園です。

柱をコンパクトな二本組柱とし、内側に傾斜させることで、観客席とフィールドとの距離を短くした臨場感ある競技場となっています。

柱・梁・段梁・段床版をPCaPC造で施工しました。



松栄ビル式号館計画 [千葉県]

津田沼駅の商業地域に計画された鉄筋コンクリート造 地上5階建てのテナントビルとなります。外観はコンクリート打放しの縦ラインとタイル貼りを強調したデザインとなっています。



エントランス



木目をあしらった内装

会社情報

■ 会社概要

商 号	株式会社ピーエス三菱 P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.
設 立	1952年3月1日
資 本 金	4,218,500,000円
従業員数	単体：1,110名 (2023年3月31日現在) 連結：1,653名
本社・支店	(2023年4月1日現在)
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9111
東京土木支店	〒104-8572 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9511
東京建築支店	〒104-8572 東京都中央区晴海二丁目5番24号 (03) 6385-9611
札幌支店	〒001-0010 北海道札幌市北区北10条西二丁目13番地2 (011) 717-2133
東北支店	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町一丁目8番1号 (022) 223-8121
名古屋支店	〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内一丁目17番19号 (052) 221-8486
大阪支店	〒530-6027 大阪府大阪市北区天満橋一丁目8番30号 (06) 6881-1170
広島支店	〒730-0016 広島県広島市中区鞆町13番15号 (082) 223-5092
九州支店	〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜二丁目4番1号 (092) 739-7001

■ 役 員 (2023年6月22日現在)

取締役および監査役

代 表 取 締 役	森 拓 也
代 表 取 締 役	川 原 利 朗
代 表 取 締 役	居 村 昇 晋
取 締 役	佐々木 晋
取 締 役	櫻 林 美津雄
取 締 役	加 藤 秀 樹
取 締 役	保 坂 美江子
取 締 役	吉 良 尚 之
取 締 役	雑 賀 和 彦
常 勤 監 査 役	朝 倉 浩 樹
常 勤 監 査 役	水 嶋 一 樹
常 勤 監 査 役	小 山 靖 志

(注) 取締役加藤秀樹、保坂美江子、吉良尚之、雑賀和彦の4氏は社外取締役であります。
監査役朝倉浩、水嶋一樹の両氏は社外監査役であります。

執行役員 (※は取締役兼務)

※ 社 長 執 行 役 員 (全般統理)	森 拓 也
※ 副 社 長 執 行 役 員 (社長補佐・国内関係会社担当兼海外事業担当)	川 原 利 朗
※ 専 務 執 行 役 員 (建築本部長)	居 村 昇 晋
※ 常 務 執 行 役 員 (管理本部長・経営企画担当兼サステナビリティ推進担当)	佐々木 晋
※ 常 務 執 行 役 員 (土木本部長)	櫻 林 美津雄
常 務 執 行 役 員 (大阪支店長)	藤 原 博 之
常 務 執 行 役 員 (東京建築支店長)	寒 川 勝 彦
執 行 役 員 (建築本部副本部長)	宮 岡 良 幸
執 行 役 員 (海外事業室長)	桵 谷 孝 志
執 行 役 員 (名古屋支店長)	田 原 道 和
執 行 役 員 (東京土木支店長)	武 田 哲 郎
執 行 役 員 (技術本部長・安全品質環境担当)	大 山 博 明
執 行 役 員 (建築本部副本部長兼建築営業部長)	松 本 太 郎
執 行 役 員 (経営企画室長)	小 林 仁
執 行 役 員 (管理本部副本部長兼総務部長兼サステナビリティ推進室長)	宅 野 伸 二

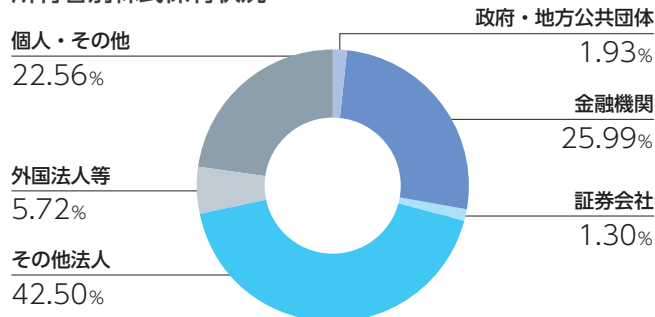
■ 株式の状況 (2023年3月31日現在)

発行可能株式総数	11,000万株
発行済株式の総数	47,486,029株
株主数	14,298名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
UBE三菱セメント株式会社	15,860,354	33.49
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 太平洋セメント口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	4,491,300	9.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,237,500	6.83
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	2,942,200	6.21
住友電気工業株式会社	1,834,800	3.87
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (役員報酬BIP信託口・75949口)	964,025	2.03
岡山県	839,740	1.77
RE FUND 107-CLIENT AC	535,019	1.12
三菱地所株式会社	496,000	1.04
ピーエス三菱取引先持株会	483,360	1.02

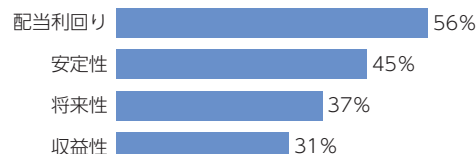
所有者別株式保有状況



株主様アンケート結果のご報告

第75期中間株主通信において実施させていただきましたアンケートでは、大変多くの株主様にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この貴重なご意見・ご要望を真摯に受け止め、今後の株主通信の発行およびIR活動に活かし、取り組んでまいります。

当社の株式を購入された理由 (複数回答)



充実を希望する情報について (複数回答)



ご意見・ご要望 (要旨抜粋)

- ・道路インフラ等の安全な工期短縮への取り組みが紹介されていて、完工による財務改善が期待され、応援している
- ・もっと完成したものを株主に自慢してほしい。そしてモノを造れる誇るべき会社だと思えるのでいろいろ教えてほしい
- ・三菱グループの一員であるというブランド感だけでなく、単体での知名度向上にさらに取り組んでほしい

ホームページのご案内

財務・業績情報、IR資料、プレスリリース等、IRに関する情報をタイムリーに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

<https://www.psmic.co.jp>



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.psmic.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトに
ご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com> **アクセスコード 1871** **いいかぶ** **検索**

 **空メールによりURL自動返信** kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。
(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。 <https://www.link-cc.co.jp>

●アンケートのお問い合わせ 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL : info@e-kabunushi.com

表紙の説明



本工事は、東海北陸自動車道の4車線化事業に伴い建設されたPRC3径間連続ラーメン波形鋼板ウェブ箱桁橋です。

4車線化により、渋滞の緩和や安全性の向上に加え、災害時での通行活用などに貢献しています。

コーポレートマーク



生命の神秘である植物の発芽がモチーフです。発芽は、力強い成長を意味し、新分野・新領域の開拓を表現しています。

また、オレンジが大地（＝土木）、ブルーが空（＝建築）、全体で地球をイメージして、自然と共生する企業を具象化しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、有機溶剤等を使用しない環境にやさしい「水なし印刷」で印刷し、「ベジタブルインキ」を使用しております。また、針金を使わずに製本しております。